

## 9 講義要綱

放送英語(リーディング)14(1単位) 担当者:法学部教授 横山 千晶

### ■授業内容

平易な英語でつづられてはいるものの、じっくり味わうことのできる短編小説を読んでもみましょう。短編小説は短いからこそ、限られた紙面で作者が力量を発揮する絶好の場です。そんな作者の手法を英語という言語を通じて堪能しましょう。同時に小説の醍醐味は、まさに言葉で繰り広げられる情景を「楽しむ」ことです。ときに情景を思い浮かべつつ、ときに登場人物の気持ちに思いきり感情移入しながら、作品を五感を使って味わいましょう。この授業をきっかけに、小説を楽しみ英語でさまざまな文章を自ら読んでいただける足かりを作っていくことが最終目標です。

### ■テキスト

安永義夫編注『英米短編集Ⅰ *The Little Girl and Other Stories*』金星堂、本体1,100円＋税

### ■参考書

夏に慶應義塾大学出版会から出版予定のO. Henry読本『“The Last Leaf”を読む(仮題)』を後期に参考書として使用する予定です。詳しくはニューズレターでご報告します。

### ■学生への学習上の心構え・履修上の要望

英語で小説を読み、言葉そのものと筋を味わうことが第一の目標ですが、基礎から英語をやり直すこともかねて、精読をしていきます。しかし、授業に頼ることなく、必ず放送の前にある程度の予習をおこなってください。予習をやっておくと、放送を聴いたときの理解度がちがいます。また復習も大切です。重要な文法事項は放送の中で説明いたしますが、その都度ご自分で文法書を紐解いて復習をおこなってください。その結果、授業でいくつかの短編を読み終わったあとに、英語で小説をもっと読んでみたい、と皆さんに思っただけでなく、これがこの授業の最終的な目標です。また、英語を読むことにそれほど苦勞を感じないという皆さんにも、英語で書かれた小説の醍醐味をさまざまな角度から楽しんでもらえるように、努力いたします。10ヶ月という限られた期間の放送ですので、教科書に載っているすべての短編を読むことはできません。しかし、読めなかった短編を授業が終わったあとで皆さん方が各自で楽しんでいただければ幸いです。どの短編を授業の中で読み進めていくのかは、初回の授業でご紹介します。ちなみに今回授業で読む最初の作品は、2番目の“The Little Girl”、そのあとは3番目の“The Luncheon”、続いて教科書最後の作品、“The Last Leaf”を読んでいきます。4番目以降は教科書の中の他の作品を読む予定ですが、どの作品を読むかは授業の中で発表します。教科書の中の作品すべては読み終わることができませんが、授業で取り上げなかった作品は、自分たちで楽しんで読んでみてください。

またせっかくの連続ラジオ授業ですので、放送中皆さんの生の声も反映していければ、よりよい授業になることでしょう。メールアドレス、chacky@a8.keio.jpまで放送のご意見や感想をお寄せください。

評価は、2回の試験を受験し、レポートを提出していただいた方を対象としますので、必ず定期試験を受け、1回のレポートを提出するように努力してください。どれかひとつでも欠けている場合は評価の対象とはなりません。

■**授業シラバス**(あくまで予定です。スケジュールは授業の進行によって変更する可能性があります。)

- 第1回～第10回 “The Little Girl”
- 第11回～第20回 “The Luncheon”
- 第21回～第30回 “The Last Leaf”
- 第31回 10月の試験の講評と解説
- 第32回～第41回 次の作品(現在未定)
- 第42回 10月のレポートの講評と解説

■**成績評価方法**

上に書いたとおり、レポート提出1回、前半(10月科目試験)・後半(翌年4月科目試験)の2回の科目試験の総合評価。必ずレポートと2回の試験を受けてください。この3つがそろうことが評価の前提条件です。

■講義内容

アカデミック・ライティングの文章作成法を通して、英語のライティングの諸相を学ぶ。基本的な文の構造の学習をふまえて、英語のパラグラフライティングを学ぶ。たんに日本語を英語に置きかえるだけの「英作文」では不十分であることを論じたい。時には日本語の伝統的な作文の作法と比較しながら、英語によって自分の考えを伝えたり、議論する方法を学び、それを身につけることを目標とする。その意味で、材料としては「アカデミック」なものをを用いるが、それ以外の様々なライティングやオーラルのプレゼンテーションにも応用しうるものと思われる。なお、授業の進行によって、スケジュールが変更する可能性がある。

1. 英語のライティングの基本構造
2. ライティングにおける辞書やツールの活用方法
3. 書くテーマを考える
4. パラグラフの構造
- 5—6. トピック文の書き方
- 7—9. 支持文の書き方
10. 結び文の書き方
11. 統一性を持たせる—Unity
12. つながりを持たせる—Coherence
- 13—14. つながりを生み出す方策
- 15—16. 詳細を書く
- 17—18. 事実と意見
- 19—20. 引用のしかた
21. パラグラフからエッセイへ
- 22—23. 時系列順に書く
- 24—25. 原因と結果
- 26—27. 比較と対照
- 28—30. パラフレイズと要約の書き方
- 31—32. 論証のしかた
- 33—37. 文のタイプと構造
- 38—40. 節のタイプと構造
41. 句読法としあげのしかた
42. まとめ

■テキスト

Alice Oshima and Ann Hogue, *Writing Academic English (4th Edition)*. Longman.  
本体3,220円(時価) + 税

**■参考書**

特になし

**■学生への学習上の心構え・履修上の要望**

放送授業という制約があるので個別の添削等はできないが、英語のライティングのエッセンスを学び取って自ら書くことの指針にするつもりで受講してほしい。

**■成績評価方法**

年一回のレポート、前半・後半各二回の科目試験による総合評価

## 放送ドイツ語(初級前期)14(1単位) 担当者:経済学部教授 七字 眞明

### ■講義内容

はじめてドイツ語を学ぶ方を対象に、ドイツ語文法の基礎を解説します。ドイツ語のアルファベットの読み方と発音からはじめ、ドイツ語文法の基本的な仕組みを理解できるように説明します。今年度は、テキスト(大谷弘道、大谷ウルズラ著『CD付 新・問いかけるドイツ語 改訂版』三修社)の前半部を解説します。

| 回数   | 内容             | 回数   | 内容            | 回数   | 内容                      |
|------|----------------|------|---------------|------|-------------------------|
| 第1回  | Das Alphabet   | 第15回 | Lektion 2 (4) | 第29回 | Lektion 5 (4)           |
| 第2回  | 発音 Stufe 1 (1) | 第16回 | Lektion 3 (1) | 第30回 | Lektion 5 (5)           |
| 第3回  | 発音 Stufe 1 (2) | 第17回 | Lektion 3 (2) | 第31回 | Lektion 6 (1)           |
| 第4回  | 発音 Stufe 1 (3) | 第18回 | Lektion 3 (3) | 第32回 | Lektion 6 (2)           |
| 第5回  | 発音 Stufe 1 (4) | 第19回 | Lektion 3 (4) | 第33回 | Lektion 6 (3)           |
| 第6回  | Lektion 1 (1)  | 第20回 | Lektion 4 (1) | 第34回 | Lektion 6 (4)           |
| 第7回  | Lektion 1 (2)  | 第21回 | Lektion 4 (2) | 第35回 | Lektion 6 (5)           |
| 第8回  | Lektion 1 (3)  | 第22回 | Lektion 4 (3) | 第36回 | Lektion 7 (1)           |
| 第9回  | Lektion 1 (4)  | 第23回 | Lektion 4 (4) | 第37回 | Lektion 7 (2)           |
| 第10回 | 発音 Stufe 2 (1) | 第24回 | 数字(1)         | 第38回 | Lektion 7 (3)           |
| 第11回 | 発音 Stufe 2 (2) | 第25回 | 数字(2)         | 第39回 | Lektion 7 (4)           |
| 第12回 | Lektion 2 (1)  | 第26回 | Lektion 5 (1) | 第40回 | Lektion 7 (5)           |
| 第13回 | Lektion 2 (2)  | 第27回 | Lektion 5 (2) | 第41回 | よく使われる表現・<br>基礎動詞の表現(1) |
| 第14回 | Lektion 2 (3)  | 第28回 | Lektion 5 (3) | 第42回 | 基礎動詞の表現(2)              |

### ■テキスト

大谷弘道、大谷ウルズラ著『CD付 新・問いかけるドイツ語 改訂版』三修社、本体2,600円+税

### ■参考文献

常木実著『標準ドイツ語』郁文堂、本体2,500円+税(テキストの他にさらに勉強したい方のために)

### ■学生への学習上の心構え・履修上の要望

外国語は、正しく聞くことができこそ、正しく話す、書く、そして読むことも可能となります。教科書付属のCDを十分に活用してください。

### ■成績評価方法

レポート提出1回、前半試験(10月科目試験)、後半試験(翌年4月科目試験)による総合評価とします。

放送フランス語(初級前期)14(1単位) 担当者:法学部准教授 檜橋・アンリ ナタリー  
講師 黒木 朋興

■講義要綱

フランス語の基礎文法を例文を参考に解説します。一年間で基本的な文法事項を学びます。

| 回数   | 課                | 回数   | 課                          |
|------|------------------|------|----------------------------|
| 第1回  | イントロ 綴りと発音       | 第22回 | 第7課 命令文                    |
| 第2回  | 第1課 不定冠詞         | 第23回 | 第8課 aller / venir / finir  |
| 第3回  | 第1課 定冠詞          | 第24回 | 第8課 近接未来/近接過去              |
| 第4回  | 第1課 部分冠詞         | 第25回 | 第8課 様々な活用                  |
| 第5回  | 第2課 所有・指示形容詞(1)  | 第26回 | 第9課 直接目的補語                 |
| 第6回  | 第2課 所有・指示形容詞(2)  | 第27回 | 第9課 間接目的補語                 |
| 第7回  | 第2課 リエゾン等        | 第28回 | 第9課 devoir/pouvoir/vouloir |
| 第8回  | 第3課 代名詞 être (1) | 第29回 | 第10課 代名動詞(1)               |
| 第9回  | 第3課 代名詞 être (2) | 第30回 | 第10課 代名動詞(2)               |
| 第10回 | 第3課 冠詞の縮約と数字     | 第31回 | 第10課 ジェロンディフ               |
| 第11回 | 第4課 形容詞の性数       | 第32回 | プリント 複合過去と半過去(1)           |
| 第12回 | 第4課 形容詞の位置       | 第33回 | プリント 複合過去と半過去(2)           |
| 第13回 | 第4課 代名詞の強勢形      | 第34回 | プリント 複合過去と半過去(3)           |
| 第14回 | 第5課 avoir        | 第35回 | プリント 複合過去と半過去(4)           |
| 第15回 | 第5課 否定文          | 第36回 | 第11課 複合過去                  |
| 第16回 | 第5課 非人称構文        | 第37回 | 第12課 半過去                   |
| 第17回 | 第6課 第一群規則動詞      | 第38回 | 第12課 関係代名詞                 |
| 第18回 | 第6課 比較級          | 第39回 | 第13課 単純未来                  |
| 第19回 | 第6課 最上級          | 第40回 | 第13課 条件法                   |
| 第20回 | 第7課 疑問文          | 第41回 | 第13課 受動態                   |
| 第21回 | 第7課 疑問詞          | 第42回 | プリント 接続法                   |

■テキスト

小畑精和、寺家村博、久保みゆき著『Super Rapide 超快速フランス語』駿河台出版社、  
本体2,200円+税

■参考文献

特になし

### ■学生への学習上の心構え・履修上の要望

フランス語を初めて学ぶ方の講座です。予備知識は必要ないですが、授業で説明した例文は口に出して言えるように暗記することをすすめます。付属のCDを活用してください。

### ■成績評価方法

レポート提出1回、前半・後半2回の科目試験の総合評価